

令和5年度 第2回 飯田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月23日（月） 13時50分から15時00分まで
- 2 開催場所 飯田小学校 家庭科室
- 3 出席委員 杉山邦司、露木里江子、森峯男、小野逸子、白井竜之、鈴木美枝子、
嶋口雅啓、鈴木大輔
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 生熊周（校長）、町田全広（教頭）、小林知美（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 小林知美
- 8 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木大輔委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議無くこれを承認した。

9 協議事項

- (1) 学校運営の課題と改善策について
- (2) 特色ある学校づくり、支援策について

10 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校運営の課題と改善策について

教頭から資料に基づき、学校運営の課題と改善策についての説明があり、グループに別れて協議し、その後、全体で意見を共有し合った。委員からは、以下の発言があった。

Aグループ（杉山邦司委員、小野逸子委員、白井竜之委員、嶋口雅啓委員）

- ・ あいさつは、親からしないと子どももしない。コロナ禍の影響か、外で声を出す習慣（あいさつ）が身に付いていない。あいさつは、必要。親からしてほしい。
- ・ PTAのあいさつ運動で、門に人がたくさん並んでいると、校門付近はせまく、登校してくる子どもたちが通りにくい。
- ・ 中学生は、学校全体の雰囲気や部活のためか、あいさつがしっかりできる。上級生がやっているからか、下級生もできている。
- ・ あいさつ運動する人が止まっていれば、あいさつもしやすい。また、こちら側から毎日あいさつしていれば、してくれるようになると思う。

（Aグループ代表 嶋口委員が発表）

- ・ 以前PTAで、中学生があいさつ運動に来てくれていた。（大輔委員）

Bグループ（露木里江子委員、森峯男委員、鈴木美枝子委員、鈴木大輔委員）

- ・ 地域でのあいさつを返すのは、2割ほど。1, 2年はあいさつが少ない。小さい子は、知っている人にはするが、知らない人にはしない。元気にあいさつするとまちが明るくなる。
- ・ 大きい人（高学年）を見て、続けてやっていけば小さい子もあいさつ出来るようになると思う。
- ・ あいさつをしても無視されると、冷たい地区という印象になってしまう。コロナ禍の3年の影響は大きい。あいさつする側の大人も、笑顔で続けていくことが大切。

（グループ代表 露木委員）

(2) 特色ある学校づくり、支援策について

教頭から資料に基づき、特色ある学校づくり、支援策についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ あいさつ運動については、PTAの立つポイント（門、昇降口、廊下、階段付近等）を分けてすることができるかPTAで確認してみる。（嶋口委員）
- ・ 子供たちが安心・安全に登下校し、地域の人にもあいさつができるようにするために、浜松市で行っている『子ども見守りボランティア』を活用したらどうか。まず学校運営協議会の委員が登録し、安心してあいさつできる人と印象づけていく。（大輔委員）
- ・ 安心・安全な学校のためには、登下校時の事故の危険をなくすことも大切。昇降口付近には池があり子供が登下校で利用する通路がとてまもなく歩いている。更に送迎で放課後デイサービス等の車の出入りがあり、子供たちは、車と接触しそうな通路を歩いている。このことについては、自治会連合会で承諾を取り、回覧板で池をなくしてもよいかと回してもらった。特に反対意見はなかったので、市にはぜひ池の整備をしてほしい。（露木委員）

その他報告事項等

教頭より、学校運営協議会の自己評価について説明があった。また、第3回会議は、令和6年2月9日（金）13時30分から家庭科室で開催する予定である旨の報告があった。